

## 台風30号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

令和8年10月23日  
福井県農業総合指導推進会議

日本列島への台風の接近にともない、今後、雨風が強まる可能性があるため、台風の進路など最新の気象情報の把握に努めるとともに、農作物等への被害防止に向け、以下のとおり管理対策の徹底をお願いします。

### 台風（大雨・強風）に備えた管理対策

#### ○大雨対策

- ・ソバや麦、大豆、野菜、花き圃場では、あらためて排水溝の手直し等の排水対策を行う。
- ・大雨の後は、病害予防および被害拡大の防止のため、適切な殺菌剤の散布を行う。

#### ○強風対策

- ・ハウスのフィルム、取り付け金具、ハウスバンドの破損や緩みがないかを確認する。  
また、開口部（入口等）をしっかりと閉める。
- ・果樹の支柱の点検、補強を行う。ナシ棚の「あおり止め」を点検する。
- ・収穫期を迎えているカキ等の果樹、収穫できる野菜は、台風前に収穫しておく。

### 管理作業上の注意

- ・人命第一の観点から、豪雨・強風の中での圃場の見回りは、大雨や強風が収まるまで行わない。
- ・大雨が収まった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・大雨後の畦畔や法面は崩壊しやすいので注意する。
- ・大雨による冠水や浸水被害を防ぐため、排水溝や明渠を点検し、必要に応じて掘り直しを行う。特に、過去に冠水や浸水のあった圃場は重点的に排水対策を実施する。

## 1 ソバ・麦・大豆

### <台風接近前>

- ・ 速やかに排水できるように、排水溝や落水口を確認し手直しを行う。

### <通過後>

- ・ ほ場の停滞水を早急に排水する。

## 2 野菜等(園芸施設)

### <台風接近前>

- ・ 施設の破損箇所は早急に修繕する。
- ・ フィルムの取付金具、ハウスバンドおよび固定資材の点検、補強を行う。
- ・ 風雨が強くなる前に、天窓、サイドビニール、出入口を閉鎖する。
- ・ パイプの埋設部分を点検し、埋め込みが浅くなっている箇所は土を入れて締め固める。特に新設ハウスは埋め込みが弱いので注意する。
- ・ 換気扇が設置されている施設では、必要に応じて稼働させ、施設内を負圧状態に保つ。
- ・ 施設周辺の防風ネットを点検、補強し、風で飛ばされやすい資材等はあらかじめ片づけておく。

### <通過後>

- ・ 施設、機器類の点検を行い、必要に応じて補修する。
- ・ 冠水した場合は、排水ポンプや溝切り等により速やかに排水を行う。
- ・ 急激な気温上昇や多湿状態とならないよう注意し、適切な温湿度管理に努める。
- ・ マルチ栽培圃場で冠水した場合は、必要に応じてマルチを除去、または畝肩までめくり上げ、土壌の乾燥を促す。

## 3 野菜(露地)

### <台風接近前>

- ・ 秋冬キャベツ、ブロッコリー等では、浸水による根腐れや生育不良を防ぐため、速やかに排水できるよう排水溝を手直しする。
- ・ ネギでは、株の揺れや倒伏を防止するため、土寄せを行う。

### <通過後>

- ・ 根元が露出した株は土寄せを行い、生育回復を図る。
- ・ 追肥、液肥の葉面散布等により草勢回復に努める。
- ・ 病害虫の発生状況を確認し、適期防除を行う。なお、病害が発生した株は速やかに抜き取り、圃場外へ搬出して適切に処分する。

## 4 果樹

### 【カキ】

#### <台風接近前>

- ・ 収穫可能なものはできる限り収穫する。
- ・ 枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の点検、補強、設置を行う。

#### <通過後>

- ・ 倒木した場合は、速やかに立て直して支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束し、折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。

## 5 花き

#### <台風接近前>

- ・ 10月咲きの花が開花を迎えているので、収穫間近の場合は早めに収穫する。
- ・ フラワーネットの支柱は打ち直し、中間支柱やタルキ杭を追加して補強する。
- ・ 強風を受けやすい圃場では、畝の横風に対して隣りの畝の支柱どうしをハウスバンド（1～2本間隔）で連結し、倒伏防止に努める。
- ・ フラワーネットは花の先端から3分の1程度下がったところで支え、倒伏を防止する。

#### <通過後>

- ・ 倒伏や傾斜した株は速やかに立て起こし、茎や花の曲がり防止する。
- ・ 折損した茎や傷んだ葉、花を除去し、病害発生を防止する。
- ・ 通路や圃場内の排水対策を実施し、株腐れや根腐れの防止に努める。
- ・ 灰色かび病等の病害発生に注意し、適期防除を行う。
- ・ 草勢回復のため、必要に応じて追肥等の管理を行う。

## 6 畜産

#### <台風接近前>

- ・ 施設の損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。
- ・ 施設や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。

#### <通過後>

- ・ 畜舎等が浸水した場合は、すぐに排水し、疾病予防のため洗浄・消毒し、乾燥に努める。